

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業)

事業者名	勤医協グループホームたんぼぼ(1階・2階)	評価実施年月日	2007年6月1日
評価実施構成員氏名	市原 しほ(施設長) 金田純江(1階主任) 長谷美智子(2階主任) 横山奈美子(計画作成担当者)		
記録者氏名	市原 しほ	記録年月日	2007年6月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	新入職員研修で理念の必要性について学び、理念を作っている 各々1F、2Fのスタッフルームに掲示している	
2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる。	部会やカンファレンス、ミーティングで理念に立ち帰りながら利用者中心のケアを模索している	スタッフ1人1人が利用者中心のケアのスキルアップをめざし、学習や研修を継続的に行う
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる。	運営推進会議で具体的取り組みを紹介する事で、理念を理解していただける様努めている	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方々とのあいさつ、会話を日常的に心がけている	ホーム内で地域の方々といっしょに楽しめる行事等を行ってゆきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立されることなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームのとなりにある市民菜園を借り、地域の人と交流している。 散歩で出会う近所の方ともあいさつをかわしている	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	取り組めていない	町内会が行う清掃作業等に参加してゆきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	質の高い、地域に開かれたグループホームを作ってゆく為の自己評価及び外部評価と考える		今回の自己評価と9月に予定している外部評価の結果に基づき具体的に改善に取り組んでゆく
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	去年の11月、今年の3月に会議を開いている その中でGHの現状や苦情、ミス、トラブルについても報告し意見をいただいている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	開設前より適正な運営を行う為にも、市の担当者の指導を受け、取り組んでいる		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人はそれらを活用できるよう支援している。	管理者は管理者研修で学ぶ機会があったが現在は対象となる利用者はいない		職員が学ぶ機会を設定する 対象者が発生した場合は活用してゆく
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員の入居者に対する言動で気になる事について、部会でその都度検討討議している		今月の部会で身体拘束廃止、虐待防止についての学習会を行う
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書の中で苦情の窓口については記載していたが苦情処理の手順については掲載していなかったので今後掲載する日常的に利用者の訴えに対し、苦情と思われるものについては、必ず管理者へ報告する様指導を行っている。過去に1件利用者からの苦情あり対応、謝罪している		重要事項説明書の中に苦情処理の手順を掲載し、その様に処理する
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月1回通信を発行し、ホームでの様子や行事等を載せ御家族へ送っている。おこづかいの収支を毎月御家族へ送っている。 健康に異常が生じた場合御家族に報告している スタッフが受診に付きそった場合は、結果を御家族に報告している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	過去に3件の家族から苦情があり、担当職員に知らせ、部会でも報告、原因を明らかにし、対応、謝罪している		定期的に家族と面談を行い、意見をくみ上げていく
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回各ユニットごとに部会を開き意見を出してもらい職員の日常の気づきを大切に、できるかぎり改善につなげている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	夕方からねる前にかけて利用者の対応に追われる為、11:30～19:45までの遅出勤務をつけている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	1ヶ月間休職を余儀なくされる職員が出たときに、パート職員の補充により、職員体制を守り、休職した職員も復職することができた		労働条件の改善や仲間づくりをすすめ、離職を防いでゆく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>内部研修だけでなく外部研修にも、スタッフ1人が年に1度は参加できる様努力してゆく</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>介護福祉士資格に対する手当も検討してゆく</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>家族の思いは最初の時点で十分に聞く様努力している 又、事前にケアマネがいる場合は情報を得ておく</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含めた対応に努めている。	GHに入居させる事に迷いを持ちながら相談に来る家族も多く、他のサービスを利用しつつ、入居せずに在宅を維持している方もいる パンフレットの中でも介護相談活動を行うことをうたっており、実際に相談に訪れる方もいる		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の性格やいつもの生活リズムをあらかじめ把握したうえで援助をする様心がけている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と供に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者といっしょに食事を作り、いっしょに食事を食べ、又、畑作りもいっしょに楽しみながら行っている。 職員は入居者さんを人生の先輩と思い接している		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人が御家族に会う事を希望した場合は、その事を家族に伝え、いっしょに入居者の不安やさびしさを取り除く働きかけをしている。		御家族の中には、入居者の“会いたい”という気持ちに答えきれずむづかしいケースもあるがねばりよく働きかけてゆく
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居時、御家族の本人に対する思いをうけとめ、ホームでの様子を通信や、面会にいらした時にお話しながら、本人と御家族の良い関係が築いてゆける手助けができれば良いと思います		レク活動などに御家族もいっしょに参加を促してゆく
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームに早く慣れてもらいたいという気持ちが先に出てしまい十分な支援は出来ていない		入居者さんが住んでいた家やなじみの場所へ本人が希望すれば行ける様な援助を行ってゆきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常的に孤立しがちな入居者に対しては、声かけを多くし、他の入居者との会話の中にいっしょに入れる様職員がフォローしている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりに担当スタッフが決まっいて、アセスメントを中心に 行い、カンファレンスを開き、一人ひとりの思いの理解に努 力しているがまだ充分ではない		カンファレンスを定期的に関く
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、 生活環境、これまでのサービス利用の経過 等の把握に努めている。	センター方式のアセスメントを行う中で把握に努めている		カンファレンスを定期的に関く
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状を総合的に把握するよ うに努めている。	センター方式のアセスメントを行う中で把握に努めている		カンファレンスを定期的に関く
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、介護支援専門員の適切な 監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と 話し合い、それぞれの意見やアイデアを反 映した介護計画を作成している。	今年4月よりセンター方式のアセスメントシートを使い カンファレンスを開きながら介護計画をつくりはじめている		現在は16枚のシートのうち8枚のシート を使っているが少しづつ増やし、より、利用者 を理解できる様になりたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	今年4月よりセンター方式のアセスメントシートを使い、カンファレンスの中で見直しを行っている。本人、家族と話し合いながら介護計画を立ててゆくという面ではまだ充分ではない		全員とはならなくても、必要な場合は、カンファレンスに家族も参加していただくという事もすすめてゆきたい
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	今年2月に記録の書き方の学習会を行い、わかりやすい記録を心がけているが、ケアプランにそった記録という点ではまだ不十分である		ケアプランにそった記録が書ける様に努力をする
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を生かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠方からご家族がいらした場合は、ご家族といっしょの時間を過ごしたいという希望があれば、居室に泊まっていただく事も可能です		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	今年冬休みと春休みに学生さんにボランティアに来てもらい、大変喜ばれました。又、地域の子供達の太鼓やおどり、手品ショー、婦人会のおどりなどにきていただき楽しんでいただいている。消防職員を招き、救急対応についても学んでいる		ひきつづき協力関係を持ち支援してゆく
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性の応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。			
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員が健康状態を把握、必要時受診の支援を行っている。</p> <p>月1回、協力病院の往診をうけている</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の専門医とは必要時情報交換を行い、適切な治療がうけられる様支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>管理者が看護師であり、又、介護職員として准看護師が配置されており、又、訪問看護ステーションとも連携し、24時間体制をとっている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者が入院した時は、こまめに主治医や担当NSから情報をもらい、早期退院をめざし、努めている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>むづかしい問題であり、機会を見ながら検討してゆく</p>		<p>終末期ケアの学習</p> <p>7月に2回緩和ケアの学習があるので参加する</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在は対象となる利用者はいない</p>		<p>他のGHでの事例が報告などから学んでゆきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働のダメージよの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、墨和えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居時は担当ケアマネやご家族から今までの住居環境や生活習慣について情報をいただき、ダメージを防止する様努めている。例えばなじみの物の置き場所やベッドの位置、又、今まで床に布団の方はあえてベッドにしない様お話しをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員どうしお互いに気になる言葉づかいなどを部会の中で出し合い検討している。重要事項説明書の中に「個人情報保護についての方針」を掲載し、利用者御家族に「個人情報取扱い同意書」をいただいている		労働契約の中に個人情報保護の義務化を加える
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己主張の強い利用者には注目がしがちであるが、あまり、主張しない目だたない利用者に対する働きかけが弱いと思われる		カンファレンスの中で1人1人の想いを知り、働きかける事ができる様レベルアップをはかりたい
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するものではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールは決めずその人の希望に合わせて行っている 集団レクの参加も無理強いせずに行っている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	着衣の介助の必要な方も、色や形に気をつけて、着衣していただく。「似合うね」「ステキ」など声かけする 理容・美容は訪問理美容をほとんどの方が利用している		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片づけをしている。	調理のできる方には調理を、片づけのできる人は、食器を下げる茶わん洗い、フキンで拭く、タナへの収納など自分のできる事をしてもらっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒については希望者に量を決めて毎日のんでいただいている オヤツやのみ物も利用者の意向や好き嫌いを配慮して出している タバコは喫煙室で吸っていただいている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄パターンに合わせ声かけ、トイレ誘導を行っているが失禁していてもトイレに行くのを拒否する方もいて、無理強いもできず対応に苦慮する事もある		日中はなるべくオムツをはずす努力をする
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせて、入浴していただいている 介助の必要な方でもお風呂好きの方には毎日でも入っていただいている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間や起床時間は特に決めていない 昼寝は自由にしていただいているが、その事でリズムの乱れはない。居宅の温度、湿度管理をこまめに行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	体の元気な女性入居者には調理や洗たく物たたみ、花の水やりなど、男性入居者には外回りの仕事を中心に行ってもらい、役割り意識を持つと同時に気晴らしになる様働きかける		
60	お金や所持や使うことの支援 職員は、本人はお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在は自分でお金を管理ができる方は1名を除きいらっしやらない為、おこづかい等もこちらでおあずかりし、そこから必要な物を購入している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に行きます。本人が希望した時にはなるべく体制を調整しながら、外出する様にしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段いけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援をしている。	月に2回は、デパートやお花見などの外出レクを行っている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話したいという利用者の気持ちと、電話をもらっても困るという御家族との気持ちとのズレもあり、対応に苦よする場合がある		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会者に対しては、感謝の気持ちで接し、あいさと、言葉づかいなどにも気づかいをしている。		
(4) 安心して安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入職時の研修の中で学習しているが、再度学習を繰り返して行く		再度、部会の中で学習会を行ってゆく 身体拘束禁止委員会を作る
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	頻回に徘徊のある入居者さんがおり、安全の為に玄関にカギをかけざる得ない状況にある、しかし漫然とカギをかけている状態になっており検討を要する。身体拘束禁止委員会を作り、対応策を考えてゆく。		身体拘束禁止委員会を作り検討してゆく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>スタッフは利用者がどこにいて、何をしているか、さりげなく観察しながら把握している。居室で1人でいたときには、そっとしておくなど配りよしている</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>危険物はカギのかかるタナにしまうようにしている シャンプー、リンス、液体石けんなどを顔にぬってしまう方については、スタッフが気づかっている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒の恐れのある入居者さんはスタッフから目がとどきやすい位置の居室にしている。喫煙室を設置し、タバコ、ライター等の管理をして頻回に外へ出ていってしまう入居者については30分ごとに所在を確認を行っている。 又玄関にセンサーを設置している</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている。</p>	<p>開所時に消防署の職員を講師に研修を行っている</p>		<p>年に1度は講師を呼び、研修を行いたい</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>開所時に災害マニュアルにもとずき研修を行っている</p>		<p>年に2回避難訓練を行ってゆきたい H19年度 7月と11月 > H20年度 4月と10月 ></p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ケアプランの説明、同意の中で触れている場合が多いが充分ではない スタッフ間では、安心、安全、なじみの暮らしの継続という視点でケアカンファレンスでケアについて話し合われている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調の変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結びつけている。	毎日朝10分～15分のミーティングを看護職員も含め行って おり、体調の変化や異変の早期発見、早期受診に努めている 週に1回は訪問看護ステーションの定期訪問により、バイタルサインのチェック、状況の観察等を行っている		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	用法や用量はダブルチェックをし、間違えない様に努めているが、目的や副作用については不十分です		ケアカンファレンスの中で、内服しているくすりについても学習してゆく
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	起床時に冷たいのみ物を飲んでいただいたり水分補給と食物繊維を多くとる事に心がけている 慢性便秘症の利用者に対しては、医師の指示のもと 解剤をのんでもらっている方もいる		解剤に頼る傾向にあり、食事の工夫や排便習慣をつけるためのトイレ誘導を日常的に取り入れたい
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアは拒否等もあり完全にはできていないが極力行える様働きかけている		口腔ケアの学習会を行い、口腔ケアの必要性を知る
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1部の利用者を除き、栄養、水分摂取は全体として満たされている。摂取量を記録し記載し、気をつけている 摂取の少ない利用者に対しては、メニューを変えたり食べやすい形態にしたりと工夫して食べていただいている		水分のとりたがらない入居者さんに対してはゼリーにして食べてもらう
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・マニュアルを作成している ・ノロウイルスについての学習会を行っている		マニュアルの徹底

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>炊事前の手洗いや、フキンまな板の消毒を行っている。食材はこまめに業者に発注、冷蔵庫の中には最小限の食材しか置かないなど努めている</p>		<p>マニュアルの作成と学習をくり返し行う</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>現在は職員の見ていない時に外に出ていってしまい、行方不明になってしまう恐れのある入居者さんがいる為施錠しており、家族や知人の方が出入りしやすい環境とはなっていない</p>		<p>施錠については身体拘束廃止推進委員会を作り検討してゆきたい</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>殺風景にならないよう季節の花をかざったり、カベに行事の写真を展示し明るい感じになる様努めています</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに楽しんで過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ろう下等に2人かけ用の小型ソファを4ヶ所置き、気の合った2人で会話したり、1人ですごせる様配りよしている喫煙室をもうけ1人でゆっくりタバコが吸える</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に御家族と相談、なじみの物が、すぐ目に見えるところにある様に配りよしているなるべく、自分の部屋の配置と同じ用にベッドなどを置き、安心して過ごせる様にしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が生じないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度計、湿度計を設置し、それに基づき換気や暖房を調節している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全性を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっている</p> <p>歩くところは床に物を置かない</p> <p>洗面台は広く、車イスのままでも使用できる</p> <p>トイレは1ユニットに4ヶ所あり、中も広く、ゆったり使える様になっている</p> <p>各所に手すりがついていて、安全に移動が可能である</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレの戸を全部黄色にそろえ、居室との違いを出し、まちがわれない様工夫した。</p> <p>居室の照明灯のスイッチをひも式にし、誰でも迷わずにできる様にした</p>	<p>1人1人のできる事、できない事をカンファレンスの中で話し合い、できる事をのばしてゆく様に働きかける</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関の前にプランターを置き花を生けている</p> <p>敷地内に花ダンがあり、花と木が植えられている</p> <p>すぐ近くに、市から借りた畑があり、野菜をうえている。入居者さんが水やり、草取りなどをしている</p>	<p>ベンチを2台置き、玄関先で日光浴や、夕涼み、花の観賞ができる様にしたい</p>

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者1/3くらい ほとんどない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者1/3くらい ほとんどない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者1/3くらい ほとんどない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者1/3くらい ほとんどない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者1/3くらい ほとんどない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まったり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者1/3くらいが ほとんどない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者とスタッフがいっしょになって畑作りや花の世話をし、喜びを共にする
センター方式によるアセスメント手法を学び、適切なケアプランを作り、実践してゆく